

中齋塾東京フォーラム
平成 30 年度 第 8 回講話

平成 30 年 9 月 8 日
於 湯島聖堂

おはようございます。酒井さんの想いに合わせて、話をさせていただきますでしょうか。澁澤栄一さんが、家庭の中にあつてだとか、国を預かる者、国家の立場にあつてはとか、天皇陛下がそれに伴って読まれた詩を紹介しております。そういうところで、思いやりでいく。三島中洲の解説でいくと、恕は忠恕と一体化をしている。恕は一体化をして考えねばならぬ。孔子のものの考えかたは「一（いつ）以て之を貫く」とあるから一貫性の考えかたと忠恕の考えかた、忠恕とはすなわち仁である。仁すなわち忠恕であるという解説をしていますので忠恕とは仁、「一以て之を貫く」の一貫、この考えかたでこの文章は解釈するという学者の解説であります。ぴんどこないですな。

酒井理事「恕」という一言だけで言っている箇所は、ここだけみたいですが、他は全部ワンセットになっている。そこはちょっと分からない。

小さい子に沢山のことを言うと分からないものですが、その子は余計なことを考える子だから、すぐ分かってしまう。利発な若者に関しては、なるべく言葉は少ないほうがよいのではないのでしょうか。それで自分で考えさせる。学問とは自得の道ということ学者もいいます。自得は自ら得る、自ら悟るということですから、なるべく言は少ないがよい。寡黙がよいということを教えます。なるべく自分で考えてごらん和理解をいたします。

三島中洲のものの考えかたは山田方谷に教わり、山田方谷は佐藤一斎から教わったので魂がいろいろ合体するのではないかという気がします。佐藤一斎の魂、山田方谷の魂というものが合体していく。山田一斎も石川梅次郎の魂も同じくだと思います。三島中洲曰く、自分がつくった学校は学縁・学孫に継がせるという。同じ道を学んでいる人間に長く続いてもらいたいと残しています。同じことを考えて同じように学んでいく。そうすると心の中に生まれるものは、人によって若干違うけれど根幹のものは同じだとお考えいただければよいでしょう。学者は一貫して「吾一を以て之を貫く」と仁とは忠恕。恕とは忠恕という解説で終わっています。

明治 42 年の明治天皇「鬼神もなかするものは世の中の人の心のまことなりけり」この章句に合わせて出している句ですね。あと三島中洲で一言。「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」を、逆に見ると「己の欲するところは人に施せ」と解釈をしますから、酒井さんが考えていたことは、先程の小学生向けの解説は当然もう合格点ですね。その次の中

齋塾流は中の上だと思いました。そこからもうちょっと上にいくのに、それを逆の違う視点で見ると「己の欲すところは人に施すがよい」それを実行しなさいということが出てくるでしょう。

酒井理事—聖書の中に「何事でも人々からしてほしいと望むことは人々にそのとおりにせよ」という言葉があって、はたして同じことなのかなというのを考えて、答えが出なかった。

同じものであるということ色々な人が言い続けています。中村正直であるとか、キリスト教と論語というよりは陽明学。論語の中で陽明学とキリスト教の精神は一緒であるという。そういう主張をしている方が結構います。そういうことを標榜している方は多いです。物の考えかたが表現のしかたが非常に似ているから、そういう疑問を持たれるのはごく自然なことで、それもどうぞ詰めていただいて、キリスト教の視点で陽明学の主張を見ていただくとよろしいかと思えます。

酒井理事—同じではないような気がします。

基本的に私は分からないです。それは木内信胤先生がキリスト教については深く悟るところにあった。仏教についても悟るところがあった。ただ、儒教は何となくは分かるという言いかたで比べるのですが、そんなにたいして変わりゃしない。人間の考えることだから。人間の考えることだからというところで収まっていますね。

世の中を生きていくときに、私は多少ずれがあったってどうってことはないと思います。例えばお腹が減っているなと思った時に、ご飯か麺かパンかなど関係なくお腹の中に入れてたいから、入れて満足したなと思ってから、さて今食べたのは何だろうと考えればいい。でもよく分かれば引っかかるかもしれない。そんなような感覚でおります。

最近あったことをちょっと言っておきます。寄付金の話で、西日本豪雨の寄付に対して感謝申し上げます。一回目は7月末に16万円送金させていただきました。8月末は18万円を送金させていただきました。今月末に幾らかは分かりませんが、東京フォーラム・北関東フォーラムで募金をして頂いて、また誌友会員からの寄付をすべて集めて9月末に送ります。送りますと高梁市の行政の中で寄付金担当から、すぐ高梁方谷会の会長に連絡がいくことになっております。

この間の靖国神社での奉納吟詠がございまして関係の方、有難うございました。ただ当日は欠席者が多かった。たまたまその時は、他の団体がたくさん来ていましたから目立ちませんでした。次回は10月7日ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

それからあと気になったことは、北海道の地震で不思議だなと思ったのですが、9月7日の新聞で「北海道で震度7の地震 死者9人、不明が8人、305人が負傷」と一面大きく紙面を埋めています。その同じ新聞の中を見ると、一面の上下に地震がくる前と後の写真が載っています。上の写真は地震がくる前の山の様子で、緑がいっぱいあります。地震がきた後の下の写真は、震度7が直下型でくると、山の緑が滑って落ちて土がむき出しになっているから7日の新聞は目で見てわかる。解説も含めてかなりのスペースをとっていました。ところが今朝の新聞をみたら肩すかしでした。「停電今日にも復旧 死者19人、不明19人」今日にも復旧ということが踊っている。死者や行方不明者の扱いが小さくなっている。このあとの紙面を見ていっても、スペースが少なく記事が書かれていない。何か意図的にやっているように思えてしょうがない。7日の新聞は大変だ大変だと書いてある。8日の新聞は被害が拡大して現在困っている人が大量に出ているにも関わらず、復旧することが前面に書いてある。大したことはなかったと目を逸らそうとしている。何故でしょうかということでお考えください。

今、中斎塾フォーラムの新聞の見方で喋っているところで、何でこう逸らしているのか。ここから先は自得。自分で考えてください。

北海道地震の時、朝7時35分に北海道に住んでいる友人に電話を入れました。固定電話は通じなかったが、スマホはすぐ通じました。その友人は中標津だったのでそんなに被害はないが、ただ停電ですけれどということで、何かあったら言ってくださいという話で終わってしまいましたが、これから段々出てくると思います。東日本大震災の時の状況とは違いますが被害はかなりありますよ。でもそれを意図的に少なめに書いているような気がします。西日本の豪雨被害、まだ続けているけれどそれも忘れられてしまったような扱いになっている。その前の熊本地震は、もう話題にならない。これは日本人の気性もあるのだろうけれど、意図的にしている部分もある気がします。被害に尽力するとして力を結集したいから、安倍さんは石破さんとの論戦をしないですんだ。そこらへんが、どうも引っかかってしょうがないですね。

今頃になって、こんなことが出てきたという新聞記事がありましたので、ご紹介をしておきます。

昨日の読売新聞で、海外で新型インフルエンザが発生し、国内の流入を食い止めようと検疫体制が強化されていた2009年5月12日、発熱で受診した高校生が簡易検査でインフルエンザと分かった。その後、更に詳しい検査をしたら15日に新型インフルエンザと判明し国内での新型インフルエンザ感染者が確認された最初の事例となった。その時の1年間は推定で2000万人が感染した。日本は水際阻止ということをやっていたが水際阻止の警戒網をすり抜けて日本に入り広がった経緯は分からなかった。政府の対応はワクチンをめぐっても混乱をし、国の議論は二転三転をして国内生産で2700万人分、輸入量1950万人分

の確保を決めたが流行措置に間に合わずワクチンは大量に余った。川崎市健康安全研究所長の岡部さん（72歳）は、これが強毒性の致死率の高いウイルスだったらと考えると大変なことだった。国が今年度ようやくワクチン政策にかかる期間を短縮する体制を整えるが次の新型への備えは十分か改めて問われる。こういう解説の記事を読んだのはあれ以来初めてです。というのは、水際阻止でやったものがすり抜けて日本国内に広がった。これが強毒性だったらどうなのか。すり抜けて広がった経緯は現在も分からないと明言しています。強毒性だったら見分けるのが難しいから大変です。どこからどう来たかということが分からないで爆発的に広がりますから。でもそういうことがあっても水際で阻止できず、すり抜けていくのはしょうがないというふうに思わないと、ということは書いてないですね。水際阻止作戦で日本は大丈夫だというトーンでずっとメディアは報道していたと私は思っています。水際阻止だけではこれは無理だという話はまず出なかった。本来メディアは是々非々で国がおかしいと思ったらおかしいと言うべきなのに、終わってから評論で何々すべきであったという。今回の北海道地震でも、すべきであった、すべきであったばかり出ています。電力インフラが直撃を受けた。自治体は生活に必要な情報が被害者に届くよう工夫を凝らす必要がある。これも余計なおせっかいだ。だったら新聞社が率先して我々は何をやる、こういう事をやるから自治体もこうすべきだと言うのでしたら、まだ読みやすいけれども、高みの評論だと感じます。

それで今日、皆さんここにお出でになるのに、水や食べ物をお持ちの方は？
—少ないですね。

竹岡さんがチョコレートとスポーツドリンクを力説していましたけど、とにかく水分の補給と胃袋の中に入れる物は常に持ち歩くのがよいと思います。脱線ばかりで申し訳ないが、さっき比田井さんと始まる前に、塾長のバイタリティが段々減っているような話も聞くけれど、それは心配だとお喋りをしました。心配をしていただき有難うございます。でもそれは当たり前じゃないかと答えました。理由は、二十歳前後の時に食べた量と、現在食べている量を自分で考えてみれば分かります。

竹岡さんは学生時代と現在の食事の量は比べたらどうですか。

竹岡会員—減っています。

私の実感では、食事の量とバイタリティは比例すると思っています。昨日、母親の妹（94歳）と会いました。若干認知症が出てきていて老人ホームに入る相談だった。娘夫婦が側に居たけれども「叔母さん、そろそろお迎え近くなったかどうか自分で知りたい？」と言ったら「知りたい」と言いますので「ご飯が自分で食べられなくなったら、近くなったと思えばよい」と。「何で？」と言うから、「食べられなくなって水も飲めなくなると点滴で

生きていくことは、もう死期は近いという意味だから」と話しました。口から物を食べられなくなって、もう死期は近いと思うと、自分の死期も予言ができる。勝海舟が山岡鉄舟のお見舞いに行ったら、玄関に出てきた息子が、「父は今日死ぬと言って座禅を組んでおります」と。上がっていったら山岡鉄舟が座禅をしていた。「今日お亡くなりになるそうで」と言ったら、「はい本日参ります。お世話様になりました」と挨拶をされた。帰ったら亡くなったという連絡がきました。西行法師も同じようなことです。いつ頃死ぬ、何歳で死ぬというのは、何となく予感がするのと同時に分かりやすいのだと思います。

ですから実感は、食べる量に比例してバイタリティは比例すると思う。学生時代は大盛りの丼で食べていました。その時は食べた量に比例して、バイタリティは朝起きてから夜寝るまでずっとありました。今は鯨カツ丼たぶん 3 分の 1 ぐらいの量ですよ。大きい丼で山盛り 2 杯～3 杯食べた人間がその 3 分の 1 ぐらいの量ですからバイタリティなくなって当たり前です。そのバイタリティは体力的なもの、これはなくなって当たり前だけれども、それをうまく小出しに使う。朝ごはん食べた時は午前中いっぱい若人、それで昼ごはん食べたら壮年。晩ごはん食べたら小・壮・老でいくと老人。夜更けまでまだ何かしているから、夜更けになったら介護老人。今は晩年と言わないで介護老人というふうに使っている物によって変わります。何故なら私は食べかたを逆三角形にしています。朝はたくさん食べて昼はかなり減る。夜はもっと減る。夜食べ終わってから翌日の朝ごはん食べるまでの間に 12 時間は間をおくので、夜更けになったら介護老人になるのは当たり前。ただし好奇心だけはあつ。増える。不思議ですね。

恒例の質問

・ここ 2 ヶ月、暑いけれど良い日が続いたなという方どうでしょうか。

これは何度も言いますが、客観ではございません。主観です。心が楽しい日が多かったなと思えばそれでよし。

・嘘をつかない日が比較的、ここ夏の間は多かつた。嘘はつかない。

・夏の間、有難うと言ひ、有難うと言われることが多い。
有難うと言われることは良いことです。

・夏の間ずっと健康法を続けていた。

・昨夜寝るときに、今日は 1 日良かつたなと思つて昨夜寝た方。なお且つ手を挙げた方

で、明日も良かったと思って寝た方。

- ・自分磨きは結構していた。今も自分磨きをしている。

論語の視点（衛霊公第十五 23）

【二三】子貢 問いて曰く、一言にして、以て終身之を行ふべき者有りやと。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれと。

周りに注文つけるときには、とてもいい科白ですね。これは自分に置き換えないで、人に置き換えるといいですね。自民党の総裁選が始まりました。もしも質問する時間があったら、「石破さん、この章句をどう考えますか」「安倍さん、忖度という言葉はとても良い言葉だと思いますが、忖度という言葉と思いやりと、どう違のでしょうか」と。この章句を元にして今後の国家の運営の方針をお考えいただきたい。この章句を元にして政治家に注文を付ける、聞く。澁澤栄一の「一国を預かる者はここを心して読まねばならん。国民が安心して暮らせるように、食べ物、住居、着る物、きちんと満足して安心して過ごせるように」と書いています。仕事する上においても同じです。これで全部、相手に対する思いやり、相手の立場になって考えてくださいということです。

もう一つ、テレビやネットを見ていたら、元アイドルの女性が交通事故を起こした。飲酒運転で人を撥ねて、その場から逃げて逮捕されたとありました。お酒は基準の1.5倍ぐらいということでしたけれども、メディアでは、お酒を飲んでいるので動機はどうあれ、人を撥ねて現場から立ち去ると轢き逃げという烙印を押され悪人という扱いになる。

去年、自転車で坂道をこいでいた時、あまり周りを見ないで私の感覚で、坂を下り始めたら目の前に車が出てきた。大変だと思って急ブレーキを無意識のうちにかけた。坂だから勢いがついて自転車がぐるんと回って、私は宙を飛んで落ちたけれど、幸か不幸か受け身を取ってどこも怪我はしなかった。向こうの車は寸前で止まった。だから接触はしなかった。接触はしないけれども、その時に車の運転手さんは若干過失ありということになりますか？止まったから過失がないのかな？

会員一どっちが優先か。

あれは狭い道だから優先に入るんじゃないかな。車一台通ったらすれ違いができないという道でした。交差することができない。車が来たな、何が来たなと思ったら止まってな

ければいけないような場所でした。

まあそれでお立ち合いだけど、交通事故を起こした時というのは、怪我した方は「なんともない大丈夫、大丈夫」と言いますね。私も血が出ていましたが、全然気にしないで動いていたら、食事している時に「血が出ていますよ」と言われて絆創膏を貼って終わりにしました。2ヶ月ぐらい経ちますが、まだ痕は残っています。でもその時は「大丈夫」と言いますね。最近の事例ですが、交通事故がありました。車の運転手は相手が「大丈夫」と言うから、その場は行ってしましますが、相手に怪我がなくても相手はどこかにぶつかっている。怪我がなくて良かったと立ち去ったら、あとで相手は痛くなったのでしょう。ぶつけた相手はどうか。いない。ということは逃げたということになります。逃げたから追いかけて逮捕された。本人はそんなに加害者意識なしで走って行っちゃったということがありました。これは相手を思いやる心。自分が交通事故を加害者側で起こしたら、「なんともないですよ」と相手は言っても、相手のことを思いやって病院に行こうとかをすべきだと申し上げたいので言いました。交通事故の場合もそうだし、政治家の場合もそうだし、喧嘩している場合もそうか。夫婦で喧嘩をする場合、兄弟で喧嘩をする場合、会社の中で喧嘩をする場合も、何で相手がこんなにむくれているのか。何で相手がこんなに突っかかってくるのか。相手の立場を考えると、何かちょっと違うでしょう。

「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ」と「己の欲する所は人に施すことをせよ」と両方眺めながら周りに注文をつけるときに使いましょと、私は受け止めております。周りを見るといっぱいあります。

先ほどの新聞を広げて、書きかたでとても不思議だったのは今日の新聞で、北海道に関するニュースがとても少なかったことが不思議でした。それから、想定外に北海道が全域で停電をした。危機管理はいったいどうなっているのか。いわゆる唯識者が、それなりに意見を出しますが、見出しに書いてある物で中身を一つ一つ見ると、病院の備蓄は一日分しかないという切羽詰まった事態というものは、小さくちょこっと書いてあるぐらいです。切羽詰まってというのがありますが、何かこういうときは自粛したのですかね。他を見ても大きな記事はないのですが、なぜ北海道の報道を減らしたのか不思議。でも社説でここは電力のインフラが直撃を受けたみたいなのが書いてありますけれども、すごくアンバランスさを感じております。

それから「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ」で何か皮肉みたいな記事があったのでそれも紹介します。皮肉というのはこういうことです。

今日の読売新聞で「スルガ銀行 ずさん融資の企業風土」ということですが、スルガ銀行による不適切融資の問題とあります。ずさんな融資で、お金儲けをしたいという人達にお金儲けの道を開いたスルガ銀行。この不動産を買って人に貸せばお金儲けができま

すよということで行員が勧めた。でもお金がちょっと足りない。そうしたら融資する金額の1割自己資金があればよい。それでも自己資金が足りない。ちょっと触れ先を変えましょう。何のことはない、架空の通帳を作ったりしている。この新聞記事を見ると、これが不思議。紙面に書いてあるものは綺麗な書きかたをしています。綺麗など言うのは、読んでいて、そういうこともあるのかなと思わせる。ただ、第三者委員会の調査報告書が分かりやすい。不正行為の手口は融資基準を満たすように見せるために不動産業者、または借り入れのために銀行の預金通帳を偽装していた。それから入居状況を偽装し、不動産の売買契約書も偽装した。それを裏付けるものとして行員の関与がありますが、行員74人から偽造が疑われるメールがあった。黙認をした行員は80人以上。書類の偽装が投資用不動産向けの融資全般に蔓延していた。所属長や執行役員の積極的な関与や黙認などが認められる。不動産業者から飲食店などで接待を受けた行員が9人いる。それから審査部に対して元専務執行役員が直接かけあっている。無理やり稟議を押し通し恫喝と受け止める社員もいた。社内の書類を投げつけたりすることも横行していると、かなり具体的な事を書いています。第三者が書いているものをそのまま載せるというのは良いことですね。でもそのままといっても、だいぶ要約をしています。これは相手のことを思いやりつつ自分のことも思いやるわけです。ふざけたことに最初の頃は国も褒めていた。多くの地銀が収益難に苦しむ中、スルガ銀行は個人向け融資に特化した独自のビジネスモデルで連続六期増益は金融庁からも褒められて評価されていた。お役所は目の前、目の前で褒めるけれども、駄目になったら文句をつける。今の官僚は何をやっているのかとも思います。

もっとも国もこういう書きかたをするからアホだと思うが、6日の新聞で「国民年金が5万5千円強。総務省の家庭調査では、一人暮らしの65歳以上のお金は月14万6594円が必要。厚生年金では賄えるが、国民年金だけだったら賄いきれないので、それは生活保護です」と書いてある。私が気になっているものは、国も少子高齢化に対して対策を始めていると書いてあるが、新聞を読んでみましょうか。

パートなどの非正規労働者が老後に貧困に陥るのを防ぐため、厚生年金に加入する対象を週30時間以上働く人から、週20時間以上に広げました。今後対象を拡大することが検討されています。これだけ読むと、国が良いことをしているような錯覚をもたらせます。非正規労働者、パートをやっている人たちが年を取って、お金に困ってどうしようもなくなるのを防ぐために厚生年金に加入する道を広げた。週20時間しか働かない人でも厚生年金に加入できる道を広げたからとても良いことを国はしている印象を与えるような書きかたですが、何のことはない、原資が足りないから金を無理やり取る先を増やしたというだけの話です。これは相手のことを思いやっているような口ぶりで自分の懐を増やそうというだけの話じゃないかと感じます。何でこういう書きかたをするのか。どうしてこう書くのかね。だいたい国寄りのものしか、見たことがない。ひとつの物事は両方の視点があると見ていただければ良いでしょう。

基本哲学で難波さんが前に総合的な直観力の話をちょっと聞かれました。総合的直観力は、学ぶという学問の立場でいうと、横の学問をし、真っ直ぐ縦の学問をしていくと、ある日突然それらの知識が融合して爆発すると知恵が生まれる。その知恵を総合的直観力と申します。

総合的直観力、それをこの足るを知るという考えを進めていくと、知らず知らずの間に身に付いてまいります。そう考えていただくと良いでしょう。

テーマ「十牛図の三番」

残り 10 分ですから、一から十までさらっとおさらいします。天風先生が十牛図を解説されたものです。

一番、「尋牛」牛を尋ねる。何か目的を持つとき。こういうことをしたいと思ったら尋牛です。

二番、「見跡」牛がいた跡を見る。これは今の我々の場合だと、目的に沿った良い本を見つけた。良い本を見つけたら見跡。

三番目、「見牛」牛を見た。牛のしっぽを見た。牛の姿を少しでも見たというのは見牛。これは明解に分かったのではなく、何となく分かった。

四番、「得牛」牛を得る。得牛は、悟った。自分で自得した。何となく分かったから、これだ、間違いないというところが得牛です。何となく分かったから、これだ間違いないと思っても、翌日になると忘れてしまう。

五番、「牧牛」牧牛というのは牛に乗って、自分で好きな所に行く。これを言葉でいうと、忘れずに言い続ける。悟りを継続し続けるのは難しい。いろいろ一生懸命考えて研究していく。牧牛、牛を飼いならして好きな所に動く。そうなりやしめたものだよと。

六番、「騎牛帰家」これは今生きている中で不平不満というものが無い。自分の心の中を覗いてみると私の心は何と綺麗な心だろう。それを天風先生が説教の中で紹介していますが、「らしくなされ」と。

中斎塾フォーラムだったら、中斎塾フォーラムの塾生らしくするには、どうしたら良い

かなって考える。家に帰って奥さんと色々お喋りするでしょう。そうすると、こういうことと言われた。ああいうこと言われた。自分でも納得した。塾生で、「分かったぞ」といったら、分かったぞっていう人間らしくするがよい。「らしくなされ」というのは天風先生が言われた「騎牛帰家」。不平不満が無いよと思ったら、私は不平不満なんて無いという人らしくしなさいという。それが騎牛帰家。

七番、「亡牛存人」牛がなくなって人もいなくなる。何も無い。もうこれ以上良くなりたいたとも思わない、これ以上悪くなりたいたとも思わない。生きているとも死んでいるとも思わない。生死を超越した段階が亡牛存人ということ。

今の私は生死を超越しておりませんので、とてもとても、そこまではいかないなと思っております。

八番、「人牛俱亡」飲食店やなにかのお店で、大きい円を書いた掛け軸を見たことがあると思います。円い掛け軸、円相、円の姿。それは「人牛俱亡」人も牛も共にいない。

これは十牛図でいうと、人間の到達しうる、自分の力で到達できる最高の境地というふうに解説をしておられます。これは迷いも無ければ悟りというものも無い。迷ってもいない、悟ってもいない。

まだ全然分かりません。しょっちゅう迷うし、悟っているとも思わない。これは天風先生が書いておられる解説になります。

それから九・十は、もう人外の話だから気にしないでもいいと思います。でも少し言いますと、九は「返本還源（へんぼんげんげん）」本に帰る。還源は源に還っていくということで、これはよく出される。「染めいだす人はなけれど 柳は緑 花は紅」自然を見ていて、染めている人間はいないけれども、時期が来れば柳は緑になるし花は咲く。ライオンに食べられる時時が来れば素直に食べられちゃおうか。「柳は緑 花は紅」の境地が九番の返本還源。

十、「入麩垂手（にってんすいしゅ）」これはもう自然の感化という極みのようですから布袋様の境遇。布袋様をだしています。

畑中さんがよれよれの服を着て、肩にずた袋を下げて居酒屋に入っていく。その中は泥棒ばかりいたとする。畑中さんが良い気持ちで入ると、そこにいた泥棒達は何も畑中さんが言わなくても、居酒屋の泥棒達はみんな真人間になりました。自然の感化力は凄いねというふうなことが十牛図で解説をされておりますので、自分が今どこのポジションにいるのかを考えながら生きていくのは、やはり良いことであろうと思います。